

教育長	部長	課長	係長	係

第 4 回 会 議 録

会議名	知立市文化芸術推進会議
-----	-------------

令和2年9月2日	開催場所	中央公民館 10時00分～ 11時30分
出席者・委員	清水裕之、宇納一公、薫田八郎、戸谷田知成、三宅隆弘、橘玲子、三浦啓作、★依田由加、永井淳子、稲垣英雄、藤澤幸兄、村石正枝、川上陽子、★David Hunt、★岡松良典 (★は欠席)	
事務局	加塚部長、中野課長、近藤課長補佐、竹内担当係長	
<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ</p> <p>会 長：みなさん、こんにちは。大変、暑い中、ご参集いただきありがとうございます。本日もよろしく申し上げます。</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 1～3章について</p> <p>会 長：それでは事務局から説明をお願いします。 (事務局：資料1に基づき、1～3章について説明)</p> <p>会 長：修正点についてご意見・ご質問はありますか。</p> <p>宇 納：P13の文化芸術の価値について、順番を入れ替えて最初に人間尊重・多様性維持にしていかがでしょうか。</p> <p>事務局：国の計画を抜き出しているのですが、内容が変わるわけではないので、入れ替えます。</p> <p>薫 田：過去・現在・未来という考え方から、知る、つながる、もりあがるの後に、「継承していく」など、入れてはいかがでしょうか。</p> <p>戸谷田：つながるという言葉は、連携だけでなく、継承という意味もありますね。</p> <p>会 長：もりあがるは、それが終わった後が気になりますので、継承、継続という視点があるとよいかと思います。</p> <p>薫 田：知る、つながる、続ける、はいかがでしょうか。</p> <p>橘 田：広がるはいかがでしょうか。</p> <p>薫 田：広がるはもりあがるも包含します。</p> <p>三 浦：横の広がり、縦の広がりがあると思います。さらに5文字で、もっと進む意味があると</p>		

よいと思います。高めあう、磨きあう、創り出すなども考えられます。

会 長：現時点での第1候補は、広がるでしょうか。持続性のある言葉について、市で検討して提案してください。

会 長：P15の役割は、それぞれの施設に確認しているということですね。では、次の議題にまいります。

(2) 4～6章について

会 長：事務局から説明をお願いします。

(事務局：資料1に基づき、4～6章について説明)

会 長：意見などいかがでしょうか。

○4章

戸谷田：p16⑥小劇場演劇について限定された事業が記載されていますが、例えば、「劇場機能を活用した事業」として、少し枠を広げた方が特色あるにふさわしいと思います。大ホールのオーケストラピットや、小ホールを平土間にできることを想定します。

会 長：ここは、結構、具体的な記載ですね。今ある事業を基盤として、さらに特色ある事業を展開していくとしては、いかがでしょうか。

橘：「充実した施設の特徴」としてはいかがでしょう。

会 長：知立市文化会館の特色ある、もしくは充実した劇場設備として事務局で検討をお願いします。

稲 垣：彫刻のあるまちづくりについて、ユニークなよい作品が設置されていると思いますが、このような作品が随所に配置されていくのかと思い、感心しました。パティオ周辺の地区を市街化区域とする見込みもあり、まちづくりや都市計画の中で、彫刻をうまく配置していただくとよい環境になると思います。

三 浦：まちなみの中に作品があつて、美術館に行かなくても見ることができてよい取組だと思います。彫刻に特化していくという考えもある一方、絵画や音楽などいろいろな文化芸術が、まちの中にあふれ、肌に触れ、親しむことができるようにするという考えもあります。

宇 納：総合計画に位置付けられていることもあり、このように記載していると思います。彫刻のあるまちづくりに20年取り組んできていますが、彫刻だけでなくサインやマンホールの蓋も含めてまちのすみずみまで芸術があり、それに触れることができる芸術のあるまちづくりの方がよいと考えています。ただ、刈谷市は「音楽のあるまちづくり」とするなど、絞って展開する例もあります。

会 長：彫刻だけでなく広く「アート」として、彫刻のあるまちづくりを発展継承してアートのあるまちづくりに取り組んでいくとしては、いかがでしょうか。

事務局：お話をお伺いし、「アートのあるまちづくり」など広く捉え、一例として彫刻のあるまちづくりを進めていくとします。

会 長：細かなことですが、枠内の文章がページをまたがないようしてください。

薫 田：P20 の⑤近代化遺産、食文化等の研究について、研究だけでなく創出などについて考える必要があると思います。歴史民俗資料館が担当するのでしょうか。近代化遺産、食文化は違うものと考えたべきではないでしょうか。その他の分野と考えるのであれば、この施策群の一番最後に記載してはいかがでしょうか。

会 長：これから新たにやろうということですね。担当は歴史民俗資料館でよろしいでしょうか。

事務局：歴史文化基本構想で、近代化遺産や知立の歴史的な特徴などをあげており、知立らしさとして、市民と取り組むことができると考えています。近代化遺産では明治用水、食文化では大あんまきやおこしものなどがあり、模索していこうと考えています。

稲 垣：特にイメージする市民グループなどがなく、新たな取り組みということであれば、最後に記載してはいかがでしょうか。

会 長：⑤を一番最後にもってきて、「知立らしさの研究の深化」として、文章の中で「知立の近代化遺産、伝統の食文化の理解を深めます」などの記載方法を考えてください。例示として、明治用水をはじめとした近代化遺産、あんまきなどの食文化などと記載しても良いかと思えます。わかっていないことを発掘しながら次につなげていこうという視点から、市民と一緒にまちなみ、近代化遺産、食文化などを調査し、再発見していくことでしょうか。

三 浦：ここは、過去を掘り起こすという視点でしょうか。

会 長：歴史・文化財に関する施策ですので、過去の視点です。

三 浦：知立の文化を創造・発展させていくためには、研究者や学芸員だけでなく、市民を積極的に取り込んで推進していくことが重要だと思います。例えば、まこもだけは、市民が研究して、栽培をして、工夫をしています。レシピの応募をして・採用して、学校給食にも取り入れています。これこそ、食文化の創造で経済の発展にもつながっています。

事務局：知立らしさの再発見として、考えていきます。この施策については、市民グループなどを生み出しながら活動をしていくことを想定します。

薫 田：例えば、公民館もしくは歴史民俗資料館で、知立の昔の食づくりなどの講座を行い、サークルを作っていくなど、今していることをプラスアルファしていけばできると思います。

橘：食文化について、殿様が食べたものに関する展示を行ったり、池鯉鮒宿で何を食べたのかななどの記載が市史にあります。それらを再現していくのも面白いと思います。

稲 垣：中央公民館の講座で昔のレシピをテーマとしたり、まこもだけは食べるだけでなくリースを作ることもでき、そういう講座をしていくことが考えられます。キャッチフレーズはいい言葉がなかなか出てこないのですが「はぐくむ」も考えられます。

薫 田：⑥文化財等の案内については、まちの中の文化財にQRコードを付けて説明がみられるようにするという事業が考えられます。歴史民俗資料館が担当するか、はっきりしておくとういと思えます。

三 浦：スマートフォンに限らず、ICT技術を利用ということでしょう。

会 長：基本施策2の歴史・文化財を大切にするまちづくりは、昔あったものを発見・継承するだけでなく、新しい文化を創り出すことも含めて市民とともに取り組んでいくということでしょう。2を歴史の流れの中で新たなものをつくるというような意味を持たせた、発展的

なタイトルにはいかがでしょうか。

会 長：パティオの情報誌でまちのことをいろいろ調べていたと思いますが、いかがでしょうか。

橘：知立市内を歩いて取材をして好評でした。情報誌のページの制約があり、止めてしまいましたが、再開しようかという話も出ています。パネルも作っていて、観光交流センターで展示したこともあります。

会 長：アーカイブとして、HPなどに公開してはいかがでしょう。

戸谷田：会員等に公演情報を提供することを目的とした情報誌ですので、誌面のリニューアルを機に掲載を見送ったという経緯がありました。今は、Webブックとして市民の方に広く情報発信していく中で、これを機に再検討していくことも考えられます。

薫 田：ICT技術、Webなど、どういうふうに記述していくか、また、わかりづらい言葉に注釈をつけることなどを検討してください。

戸谷田：3-1②について、助成制度の活用と連携は異なるので、分けたほうが良いと思います。

会 長：市の財政負担を軽減というより、支援制度を利用し財政の多様化を図るということでしょう。また、連携は、優れた事業を展開するために、連携して効果的に事業を進めますということで、分けたほうが良いかと思えます。

戸谷田：以前の議論で記録ということがあったと思いますが、3-2に「記録」というキーワードを入れてはいかがでしょう。発信に集約されたという解釈でしょうか。

会 長：過去の作品を、いつでも見られるように記録しておくという視点は重要です。可児市のアールのHPが参考になり、建物ができる際の市民参加の経緯などが今でも確認できます。そういうところは全国的に少なく、蓄積の話はどこかに入れてください。

会 長：それぞれの施策を、どこにやってもらうかが、よくわかりませんので、実施の中心となる市や教育機関などを表示してはいかがでしょう。5章は取組例ですので、担当までは記載しないということでしょうか。

戸谷田：5章の取組例については、かなり実施しているものもあり、継続して実施するものと、そうでないものに留意する必要があります。

事務局：担当については、事務局で把握しているのですが、市民に公表する際には掲載まではしない方向で議論しています。

○6章

会 長：課題・改善シートをだれが書くのかを検討してください。

事務局：担当で記載をして、事務局で取りまとめ、推進会議の議論の題材にしていくことを考えています。

会 長：作成しても改善につながらないこともある一方、要領よくまとめすぎてもよくわからなくなります。さまざまな資料を書き写して評価資料を作成することも作業が増えてしまいます。これらのことに留意して効率的・効果的な方法を検討してください。

薫 田：文化会館であれば、ほとんど年間報告に入っていますので、新しく作らなくてもよいかと思えます。中央公民館やリリオの報告とあっているかがあります。

宇 納：知立市役所（文化課）となっていますが、現在の組織では教育委員会（文化課）です。
事務局：教育委員会（文化課）と修正します。想定参加者の知立市役所（担当課）は、知立市役所内の関係課で構成することを想定しています。

会 長：評価は文化芸術推進会議で行うということですね。プラットフォームはあいまいで緩いしくみで、それが醍醐味であると思います。その醍醐味のある場をつくっていくのは重要ですが相当難しいことで、声をかける人やお世話役等が必要です。

戸谷田：5つの重点施策について、推進会議の関係者とオブザーバーや市役所の担当部局も加えて、検討していくのがよいと思います。5年かけて、1年で1つ重点施策を話し合うと、5年ですべて検討できます。

会 長：1000人会議という方法もありますが、それもすごく大変ですし、市民も来づらいですよ。確かに分科会みたいに重点施策について、それぞれかかわっている人が議論する場ということはありませんね。あるいは、文化施設等がやってきたことを発表をして、ボランティアやオブザーバーに来てもらって、意見を言ってもらおうという手もあると思います。

戸谷田：連絡会議がベースになってということですね。

会 長：そうですね。言いたいことが言える場所が1つあってもよいと思います。核になるものをつくってください。重要な話ですが、非常に難しい面もあり、どのような方法をとるか具体的に検討をお願いします。

(3) その他

会 長：今後のスケジュールの説明をお願いします。

事務局：この計画については、12～1月にかけてパブリックコメントを行い、3月議会で承認が必要です。パブリックコメントに向けて、9月中に計画の内容を固めて、10月の初めに庁議にあげていく必要があります。このため、いただいた案をふまえて計画を修正して各委員にメールなどで連絡します。なお、パブリックコメントでたくさん意見をいただいた場合、パブコメ後に推進会議を開きます。

会 長：本日議論したことは、修正をしてみなさんに1度お諮りをして、最終的なまとめは、委員長・副委員長対応でよろしいでしょうか。それで、パブリックコメントを実施して大きな修正が必要であれば、もう1度、推進会議を開催するという事です。

事務局：キャッチフレーズなど、ご意見がありましたら事務局まで早めをお願いします。

4. 閉会

事務局：長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。それでは、本日はこれで終了します。